

市町村長との意見交換について

1 訪問時期

平成 20 年 1 月 10 日～2 月 5 日

2 市町村長への説明内容

- ・ 広域化推進計画素案について
経緯や検討委員会での検討、課題
- ・ 今後の進め方
県・市町村・消防本部による事前協議の実施 → より具体的な広域化の姿の検討
→ 住民にとって最適の選択肢を判断 → (広域化協議会の設立)

3 主な意見

(1) 消防のあり方に関して

- ・ 消防サービスは地域ごとに違いがあってもよい。
- ・ 地域の需要に応じた消防体制を考えることが必要。
- ・ 基本的には地域は地域の力で守っていくことが大事。
- ・ 消防団員が減ってきている状況では、消防団のあり方も考えないと。

(2) 広域化の必要性に関して

- ・ 広域化については積極的に進めて欲しい。広域化の必要性は認めている。
- ・ 構成市町村が脱退し、組織の縮小がサービスの縮小に直結することを身を持って知った。
- ・ 消防の広域化は住民の命の安全・安心のための取り組みと認識している。
- ・ 人口減や高齢化は現在の消防体制の維持に大きな影響を及ぼす。

(3) 広域化への期待・要望に関して

- ・ 今の状況よりも高度な対応(サービス)ができるようになることを期待する。
- ・ 人事の硬直化に頭を悩ませているので、広域化による組織の活性化に期待する。
- ・ 地元雇用を原則としてほしい。
- ・ 非番招集のサイレンが鳴ったら、すぐ駆けつけてくれる地域に住む職員が必要。
- ・ 広域化によって財政負担の増加がないようにしてほしい。
- ・ それぞれの地域に合った負担を考えることが必要。
- ・ 財政負担を人口や面積だけで考えない努力をしてほしい。

(4) 組み合わせに関して

- ・広域化は1本化の方向しかないと認識している。
- ・高知市を除く組み合わせは現実的でない。
- ・1ブロック化のチャンスは1度きりで、段階的な広域化は現実的ではない。
- ・1ブロックはメリットがはっきり見えないと考えにくい。
- ・6ブロック案でも管轄面積が広いと感じている。
- ・地域住民の連帯感からいくと6ブロック案である。
- ・1ブロックでも6ブロックでも広域化の手続きは同じ。
- ・合併を意識した広域化ではなく、必要に応じて考えていく。

(5) 広域化に向けての県の役割に関して

- ・合併の轍を踏まないよう県が引っ張ることが大事。
- ・消防は市町村の問題であるので、全て県に押し付ける気はない。
- ・市町村サービスは基礎自治体で完結する方向になるので、県は広域的なサポートをして欲しい。

(6) 市町村と広域化後の消防本部との連携に関して

- ・市町村長と広域化後の消防本部との役割分担や連携をどのようにしていくのが大事。
- ・災害時は市町村の下で動ける仕組みが必要。

(7) 広域化を進めるにあたっての留意事項に関して

① 高知市の参画について

- ・高知市に強いリーダーシップを期待する。
- ・高知市の負担が増えない方法を考えることは可能。

→ 高知市の考え方

「県都としてのリーダ的役割と高知市単体としての考え」を今後の議論の中で考えていきたい。

② 管轄面積拡大への対応

- ・今よりも職員が必要になりはしないか。

(8) その他

- ・交付税制度について、最低限必要な消防力の維持に要する財源は確保できるよう国に働きかけていく必要がある。